

1 単元名 幻灯師になって「やまなし」の世界を伝えよう  
「やまなし」 「〈資料〉イーハトーヴの夢」

2 単元目標

- ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知り、自分が感じたことを朗読で表現したりしようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- ・自分の感じたことが伝わるように朗読をすることができる。 【読むことア】
- ・作品の特徴や作者の生き方・考え方を捉えるために、資料を読んだり同じ作者の作品を読んだりするなど効果的な読み方を工夫することができる。 【読むことイ】
- ・二枚の幻灯について比喩表現や情景を表す叙述、登場人物の会話などに暗示されている筆者の意図を読み取ることができる。 【読むことエ】
- ・語のリズムや表現のもつ美しさについて関心をもちながら「やまなし」を朗読することができる。 【伝国イ(カ)】
- ・擬声語や擬態語、比喩表現など、表現上の特色に気付くことができる。 【伝国イ(カ)】

3 指導にあたって

(1) 教材観

- ・言語活動 朗読をするためには、表現の特徴を捉えたり登場人物の心情を理解したりして、物語全体を深く理解するとともに、自分なりの解釈をもつことが必要である。まず「やまなし」の構造・表現の特徴を捉えることで作品を深く味わい、さらに「イーハトーヴの夢」と重ねて読み、作者のものの見方や感じ方、作品世界の原風景を知ること、自分なりの解釈を持ち、朗読で伝える学習を進めていく。

本単元は、C 読むこと (1) 「ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること」、「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」、「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」をねらいとしている。「やまなし」は、額縁構造によって、二つのタイプの文章から成り立っている。外枠は「私」による一人称視点で書かれ、五月と十二月の二枚の幻灯の部分は三人称の客観的な視点で書かれている。二枚の幻灯は「かにの親子」の会話を軸に色鮮やかな情景が描かれ、独自の作品世界となっている。その世界を理解するには、資料「イーハトーヴの夢」が参考となる。作者の伝記的事実を知ること、その生き方にふれ、作者の感じ方や考え方を想像することができ、児童は自分なりの解釈をもつことができる。また、「やまなし」には、擬声語・擬態語、造語、色彩表現、比喩など、宮沢賢治独自の言葉の響きの美しさ、不思議さ、魅力があふれている。読者の想像力を膨らませ、豊かに広げるための言葉がちりばめられたこの物語は、言葉を大切に読むことでより豊かな読書体験が得られる教材でもある。

(2) 児童観

本学級の児童は 27 名。約 60%の児童が「鳳至発表の ABC (考え・根拠・理由) を使って話し合っている」という意識をもっている。(アンケートより) しかし、「授業中自分の考えを進んで発表している」児童は 52%で、授業中の話し合いが活発に行われているとは言い難い。児童の様子を見ると、根拠を取り出すことはできるが理由付けが難しいと感じていたり、自分が理由として考えていることが根拠なのか理由なのか明確になっていなかったりしているようである。

平成 28 年度全国学力調査における質問紙の調査結果によると、「国語の授業が好き」と答えている児童の割合は学年全体の 80%であるが、「読書が好き」な児童は全体の 75%とやや少なくなる。同調査における「読むこと」についての正答率は、A問題では県平均を約 3%、B問題では約 4%下回る。県平均を下回った領域は「読むこと」だけであり、児童にとってはやや苦手な分野といえる。

児童は、前学年で同系統の単元「太造じいさんとガン」の学習で、登場人物の心情や場面の情景を叙述に即して読み取り、物語の魅力を伝え合う学習を行った。今年度は「カレーライス」で、登場人物の相互関係や心情を読み取り、自分の経験と重ね合わせて書く活動を行った。「朗読」については、国語の学習のほかに、4年次より異学年交流で紙芝居などの読み聞かせを行っており、1年に1回以上は聞き手を意識した朗読の経験がある。しかし、物語の解釈を生かす読みには至っていないのが現状である。

### (3) 指導観

本単元では、作品の優れた表現を味わい、情景を具体的に思い描いたり想像したりしながら読み、さらに作者の生き方や考え方を知り、それによって自分なりの思いや考えを持ち、朗読に生かし伝える学習を進めていく。

一次では、今までの「朗読」の経験を思い起こし、「やまなし」の朗読を聞く。物語を聞いた児童はそれぞれに、幻想的な物語の世界、擬声語、擬態語のもつリズム、言葉の響きの美しさに興味をもったり不思議な思いを抱いたりするであろう。そしてこの物語が「二枚の幻灯のお話」であるという構成を知らせ、「幻灯師になって、1年生に『やまなし』の幻灯会をしてあげよう」というめあてを確認し相手意識をもたせ、単元全体の学習計画を確認する。単元計画を立てる際には、「朗読によってどんなことを伝えたいのか」という目的意識をもたせ、二次における読みのめあてにつなげていきたい。

二次では、まず表現に着目しながら「やまなし」の五月と十二月の世界を読む。その際「かへの会話や様子」「水や光の様子」「色」「上からきたもの」を読み視点とすることにより「やまなし」が象徴する世界について想像を広げることができるようにする。さらに「この作品を書いた宮沢賢治ってどんな人なのだろうか?」という意識をもって「イーハトーヴの夢」を読む。そして賢治の理想や大切にしたことを見つけた後、再び「やまなし」に戻り「なぜ題名が『やまなし』なのか」を考え話し合うことを通して物語の主題に迫る。話し合いにあたっては物語の叙述はもとより前時に読み取った「賢治の理想や大切にしたこと」も児童の考えの理由付けになりうると考える。また、あらかじめ賢治の他の作品や文章を読む活動を取り入れることによっても、賢治の理想や価値観を捉えられるようにしたい。

三次では、場面を選び朗読の仕方を考える。朗読の仕方を考えるときは、叙述を読んで感じ取ったことをどのように工夫して伝えるか考える。また、言葉のもつリズムや語感も大事にして読ませたい。朗読を交流する際はグループで聞き合う。発表者は聞き手に対し「どこを」「どのように想像し」「どのように読むか」を伝えてから読む。聞き手はその視点に沿って「どう感じたか」を発表者に伝える。そのことでより強く聞き手を意識した朗読ができると考える。

(研究テーマとの関わり)

#### 【仮説 2】との関わり

本時では、五月と十二月の場面を対比し、なぜ十二月にしか出てこない「やまなし」が題名になっているのかを考える。それぞれの場面の主題を考える際の視点を『かわせみとやまなしを比べて考える』とし「大切」として提示し、叙述を根拠に両者の違いを考えさせたい。

深める段階では、「十二月の世界が賢治の理想ならば五月の場面は必要なのか」と問うことで叙述と賢治の伝記的事実を関連づけながら対比の意味を考え、作品をさらに読み深めたい。

4 指導計画と評価規準（総時間8時間）

次	時	狙い	主な学習活動	評価規準	評価の観点				
					関	話	書	読	伝
一次	1	擬音語や擬態語、造語や比喻などの表現に気付きながら「やまなし」を読み、学習計画を立て、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの音読・朗読学習を振り返り、教材文の朗読を聞いて初発の感想を書く。</li> <li>「自分が感じたことを、朗読で表現する」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>擬態語や擬声語、造語や比喻などに気付き、感想をもっている。 (発言・ノート)</li> <li>自分が感じたことを朗読で表現しようとしている。 (発言・ノート)</li> </ul>	○				○ イ け
	2	様子を表す言葉や出来事、比喻に着目しながら「五月」の幻灯を読み、谷川の情景を想像することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三つの観点に沿って、場面の様子や情景を想像し、自分の考えを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様子を表す言葉や出来事、比喻など表現に着目しながら、谷川の情景を想像している。 (発言・ノート)</li> </ul>				○ エ	
二次	3	様子を表す言葉や出来事、比喻に着目しながら、「十二月」の幻灯を読み、谷川の情景を想像することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「五月」の場面と比べながら、場面の様子や情景を想像し、自分の考えを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様子を表す言葉や出来事、比喻など表現に着目しながら、谷川の情景を想像している。 (発言・ノート)</li> </ul>				○ エ	
	4	「イーハトーブの夢」を読み、作者の生き方や考え方を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方・考え方を年表にまとめる。</li> <li>宮沢賢治の追い求めた理想について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読み、宮沢賢治の生き方や考え方をまとめ、自分の考えをもっている。 (ワークシート・ノート)</li> </ul>				○ イ	
	5 (本時)	「五月」と「十二月」の幻灯を比べ、作者が伝えたいことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>題名「やまなし」から賢治の伝えたいことを考え、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「五月」と「十二月」の対比に着目しながら、作者の意図を考えている。 (ワークシート・発言)</li> </ul>				○ エ	

三次	6	朗読の仕方について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>賢治が伝えたかったことを話し合い、グループで朗読する場面を選び、どのように朗読するのか音読記号を付けながら考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像したことが伝わるように朗読の仕方を考えている。(書き込み・ノート)</li> </ul>				○ ア	
	7	朗読の仕方を工夫して練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>感じ取った自分の思いが伝わるかどうかを相互評価しながら、グループで朗読の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像したことが伝わるように朗読を工夫している。(ワークシート・朗読)</li> </ul>					○ イ (カ)
	8	朗読発表会を行い、感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなの前で選んだ場面を朗読し、聞き合った感想を互いに伝え合う。</li> <li>着目した言葉や表現、朗読での工夫点を確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いが伝わるように朗読を工夫している。(発言・ノート・行動観察)</li> <li>語のリズムや表現のもつ美しさについて関心をもちながら、物語を朗読している。(朗読・ノート)</li> </ul>				○ ア	○ イ (カ)

5 本時の学習（8時間中5時）

- (1) 狙い 「五月」と「十二月」の幻灯を比べ、作者が伝えたいことを考えることができる。
- (2) 評価規準 「五月」と「十二月」の対比に着目しながら、作者の意図を考えている。

【読むことエ】

- (3) 準備 ワークシート（個人用・提示用）
- (4) 展開

	学習過程（配時）	学習活動	評価（◎）支援（○）留意点（・）
つかむ	1 本時の課題をつかむ（5分）	<p>○「やまなし」の物語の特徴を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二枚の幻灯の物語</li> <li>・色を表す言葉が多い。</li> <li>・かぶかぶ、さらさら、もかもかななどの擬声語や擬態語が多い。</li> <li>・宮沢賢治が作った言葉が使われている。</li> <li>・「五月」と「十二月」が対比になっている。</li> <li>・「五月」は死の恐怖を、十二月は希望を表している。</li> <li>・場面が二つあるのに題名は「やまなし」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈「やまなし」で、宮沢賢治はどんなことを伝えたかったのだろう。〉</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書で「五月」と「十二月」の二つの場面对比して提示する。</li> <li>・物語を特徴付けている表現技法について作者の意図を考えるよう方向付けをする。</li> </ul>
考える	2 「やまなし」で作者が表したかったことを考える（15分）	<p>○賢治はなぜ「かに」でも「かわせみ」でもなく、「やまなし」を題名にしたのだろう。賢治が伝えたかったことを考えてみよう。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>大切</b> 「かわせみ」と「やまなし」を比べて考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわせみは「<u>こわい</u>」、やまなしは「<u>おいしそう</u>」とかにの兄弟は言っている。<u>賢治の生まれた頃は作物がとれなかったから賢治は食べられる世界より食べ物がある世界がいいと伝えたかったと思う。</u></li> <li>・かわせみは「<u>鉄砲玉のようなものがいきなり飛びこんで来</u>」て魚を殺すので<u>こわいけど</u>、やまなしは「<u>黒い丸い大きなものが天井から落ちてずうっとしずんでまた上へ上って</u>」いったので<u>安心する感じがする</u>ので、賢治は安心して暮らせる世界を望んでいる。</li> <li>・かわせみの出現で五月は「<u>死の恐怖</u>」の世界になり、「やまなし」の出現で十二月は「<u>希望</u>」の世界になった。「<u>苦しい中に希望を見つける</u>」のが賢治の理想なので、<u>希望を持って生きることがいいと伝えたかったと思う。</u></li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈教えること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題名には作者の意図があり、対比的に描かれている「かわせみ」と「やまなし」に着目すること。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈考えさせること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現に暗示された筆者の思いを想像すること。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを書く際は、作者の意図を考えることができるよう「賢治は・・・と伝えたかった」「賢治は・・・を望んでいる」などの表現で書くよう助言する。</li> <li>・「イーハトーヴの夢」で読み取った賢治の生き方や理想に言及している考えを取り上げ、物語の世界と伝記的事実の関連に気付かせる。</li> </ul>
深める	3 対比による効果について考える（15分）	<p>○賢治はなぜ、五月と十二月の二つの場面对比したのだろう。</p>	

まとめる	<p>4 まとめる (5分)</p>	<p>かわせみが象徴する五月の世界</p> <p>次々におそった災害のために五万人以上がなくなる 自然災害 大変な苦しみ 農作物の被害 苦しい農作業の中に暴れる自然</p> <p><b>苦しい現実</b></p> <p>・苦しい現実があったから賢治は理想を持って生きて物語を書いた。対比は賢治の生き方を表している。</p>	<p>やまなしが象徴する十二月の世界</p> <p>安心して田畑を耕せるように 一生をささげる 楽しさを見つける。 工夫することに喜びを見つける 未来に希望をもつ やさしい心</p> <p><b>賢治の理想</b></p> <p>・本時で考えたことを、次時からの朗読活動につなげるよう助言する。</p>	<p>◎「五月」と「十二月」の対比に着目しながら、作者の意図を考えている。 (発言・ノート)</p> <p>○「イーハトーヴの夢」で考えた賢治の生き方や考え方を関連づける。</p> <p>○「イーハトーヴの夢」から、怖さや苦しさがある部分と楽しさや希望がある部分を見つけるよう助言する。</p> <p>・切り返し発問として「十二月の世界が賢治の伝えたいことなら、五月の場面は必要だろうか」と問いかけ、二つの場面对比することの意味を考えさせる。</p>
	<p>5 ふりかえる (5分)</p>	<p>賢治は題名で自分の理想を伝えている。五月と十二月の対比は賢治の自分の生き方を表している。</p> <p>○今日の学習をふり返ろう。</p> <p>・題名や表現の対比を詳しく見ると、作者の生き方や伝えたいことが分かった。</p> <p>・朗読をするときは、十二月の場面で希望が感じられるように読みたい。</p>	<p>賢治は題名で自分の理想を伝えている。五月と十二月の対比は賢治の自分の生き方を表している。</p>	<p>・本時で考えたことを、次時からの朗読活動につなげるよう助言する。</p>

(5) めざす児童の姿

五月も十二月も「上から来たもの」がある。かわせみの出現で五月は「死の恐怖」の世界になり、「やまなし」の出現で十二月は「希望」の世界になった。「苦しい中に希望を見つける」のが賢治の理想なので、希望を持って生きることがいいと伝えたかったと思う。

「五月」は賢治の生きた苦しい現実を表している。「十二月」は賢治の理想を表している。苦しい現実があったから賢治は理想を持って生きて物語を書いた。対比は賢治の生き方を表している。

(6) 板書計画

**まとめ**

賢治は題名で自分の理想を伝えている。五月と十二月の対比は賢治の自分の生き方を表している。

世界	谷川の様子	かにの様子	出来事	かにの様子	谷川の様子
	すき通る水 きらびやか 春らしい 美しい など	「こわいよ、お父さま」 居すくまってしま	かわせみが入ってきた。 (魚を食べた)	あわはき クラブボン ↓幼い兄弟	春・日光(昼) 暗い 深い 不気味 温か 生き物(魚) 明るい光
	すき通る水 静か 穏やか 水が冷たい やさしい光 ゆるる波 など	やまなしの後を追う	やまなしが落ちてきた。 楽しみ・希望	あわ比べ 兄弟けんか ↓兄弟の成長	冬・月光(夜) 静か 美しい おだやか 冷たい 何もいない やわらかな光
					明るい生き生き おだやか・静か

**大切**

かわせみとやまなしを比べて考える  
(「やまなし」で宮沢賢治はどんなことを伝えたかったのだろう。)

幻灯師になつて「やまなし」の世界を伝えよう

**自然災害**  
農作物の被害

**死の恐怖**  
食物連鎖  
辛い現実

**賢治の理想**  
死から生へ  
生きる希望

入々のために一生をささげる  
苦しい中に楽しさを見つける

人間がみんな人間らしい  
生き方のできる社会  
宮沢賢治  
みんな力で力を合わせる  
やさしい心が通い合う